



令和5年度 全国高等学校総合体育大会

魂の鼓動北の大地へ大空へ

翔び立て若き翼 北海道総体 2023

【開催期間】 2023年 7/22 (土)～8/21 (月) 【総合開会式】 2023年 7/22 (土) 北海きたえーる

テニス 大会レポート

全国高体連テニス専門部常任委員 井田 敦
(小林 寛)



全国で最高気温が 40℃に迫る酷暑の日々が続く日本列島。北海道インターハイが爽やかな風吹く苫小牧市・千歳市で令和 5 年 7 月 31 日～8 月 7 日の 8 日間にわたって開催された。今年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行となったことにより、それまでの規制が大幅に緩和された。これにより、コロナ流行以前の有観客・声出し応援が解禁され、活気のある大会となった。

【開会式】

7 月 31 日 (月) 15 時、苫小牧市民会館大ホールで開会式が行われた。北海道高等学校体育連盟テニス専門部の横関尚幸部長による開始宣言で始まった。まず、前年度優勝校・優勝者からの優勝旗・優勝杯返還およびレプリカ贈呈が行われた。続いて、主催者からの挨拶を黒岩睦夫全国高体連テニス専門部部長・坂井利彰日本テニス協会常務理事が行った。地元北海道からの歓迎の言葉は、最初に岩倉博文苫小牧市長が苫小牧キャラクターのトマチョップを伴って登場し、とてもユニークな挨拶とトマチョップの仕草は観衆の笑いを大いに誘っていた。次いで八木知徳北海道テニス協会会長の挨拶があり、さらに苫小牧東高等学校の土橋菜津子さんから選手への応援メッセージが送られた。そして、選手宣誓へと進んだ。宣誓者は、

立命館慶祥高等学校テニス部男子主将の鈴木大和さんと札幌光星高等学校テニス部女子主将の小坂麻陽さんが行った。堂々とした態度で素晴らしい宣誓であった。

「この広い大地と大空の下で、3 年間の青春を共にした仲間たちと、共に戦えることを幸せに感じています。思い起こせば、ここ数年は、新型コロナウイルスによる制限で、好きなテニスができない時期もありました。それでもテニスへの情熱を燃やし続け、家族や周りの方々に支えられて今ここに立っています。大会が開催されなかった 3 年前の先輩たち、共に戦った仲間達の想いを背負いながら、全力でプレーします。



また、こうして伝統の全国高等学校総合体育大会を開催して下さる関係者の皆様、顧問の先生、仲間、家族、支えてくださる全ての方々に感謝し、この北の地に集まった、全国の仲間のプレーと応援で、北海道を、この夏、日本で一番暑い、輝く夏にすることを誓います。」





【団体戦】

8月1日（火） 1・2回戦 8ゲームズプロセット

会場：苫小牧市緑ヶ丘公園庭球場・千歳市青葉公園庭球場

8月2日（水） 3回戦・準々決勝 8ゲームズプロセット

会場：苫小牧市緑ヶ丘公園庭球場

8月3日（木） 準決勝・決勝 3セットマッチ(最終セットは10ポイントのマッチタイブレーク方式)

会場：苫小牧市緑ヶ丘公園庭球場

男子のベスト8は、相生学院（兵庫）、麗澤瑞浪（岐阜）、大分舞鶴（大分）、佐土原（宮崎）、関西（岡山）、足利大附（栃木）、柳川（福岡）、四日市工（三重）。シード校の北陸（福井）に勝利した足利大附以外は、8本シードが順当に勝ち上がった。

準々決勝は、相生学院－麗澤瑞浪、大分舞鶴－佐土原、関西－足大附、柳川－四日市工の対戦となり、どれも激戦となったが、第1～4シードの相生学院、四日市工、関西、佐土原が勝ち上がった。相生学院と佐土原はともに2－0で勝利したが、関西と四日市工はともにダブルスを落としながら大接戦となったシングルス1・2を取り、2－1で逆転勝利した。

準決勝は、相生学院－佐土原、関西－四日市工の対戦となり、3面同時展開で行われた。相生学院－佐土原は、相生学院がダブルスで先勝したが、佐土原がシングルス2で勝利し、対戦成績を1－1とした。最後にシングルス1は、相生学院の坂本選手が粘る佐土原の大岐選手を振り切り、相生学院が2－1で勝利した。関西－四日市工は、四日市工がダブルスとシングルス2に勝利した。

決勝は、相生学院－四日市工で、全国選抜決勝と同じ対戦となった。全国選抜では相生学院が3－2で四日市工に勝利して優勝している。この対戦も3面同時展開で行われた。まずダブルスは相生学院が先勝。シングルス1・2はともに1セットオールとなり、10ポイントのマッチタイブレークに突入。シングルス1は、四日市工の本山選手が、7－9から4ポイント連取して相生学院の坂本選手に逆転で勝利。そして勝負のかかったシングルス2は、四日市工の水野選手が、5－5から5ポイント連取して相生学院の山本選手に勝利して、2－1で四日市工の優勝が決まった。全国選抜の雪辱を果たすとともに、2年ぶり4度目の優勝を飾った。



女子ベスト8は、シード校の四日市商（三重）、相生学院（兵庫）、松商学園（長野）、浦和麗明（埼玉）、法政二（神奈川）とノーシードの早稲田実業（東京）、大商学園（大阪）、沖縄尚学（沖縄）。この3校はシード校の山陽女学園（広島）・宮崎商業（宮崎）・野田学園（山口）に勝利して勝ち上がった。





準々決勝は、四日市商－松商学園、沖縄尚学－大商学園、相生学院－浦和麗明、法政二－早稲田実業の対戦となった。準決勝に勝ち上がったのは、四日市商、大商学園、相生学院、早稲田実業。大商学園は2－0で勝利したが、他の対戦は2－1と大接戦となった。四日市商と相生学院は、ともにダブルスを落としながら、シングルス1・2を取って、逆転勝利した。早稲田実業がダブルスを、法政二がシングルスを取って、1－1となったが、シングルス2で早稲田実業が勝利して接戦を制した。

準決勝は、四日市商－大商学園、相生学院－早稲田実業の対戦となり、3面同時展開で行われた。四日市商－大商学園は、ダブルスを四日市商、シングルス1を大商学園が勝利して1－1となり、勝負はこの時点で1セットが終わったばかりのシングルス2にかかった、この試合は4時間の大激戦となったが、1セットオール(7－6、6－7)から10ポイントのマッチタイブレークを四日市商の林選手が10－2で大商学園の後藤選手に勝利して、2－1で四日市商がこの大接戦を制した。相生学院－早稲田実業は、ダブルスで早稲田実業が先勝したが、シングルス1・2を相生学院が取り、2－1で勝利した。

決勝は、四日市商－相生学院の対戦となり、3面同時展開で行われた。まずシングルス1で相生学院の里選手が四日市商の高山選手に勝利すると、ダブルスは四日市商が勝利して1－1となった。勝負は接戦となったシングルス2にかかり、1セットオールから10ポイントのマッチタイブレークに突入した。



ここで3回のマッチポイントを凌いだ相生学院の稲場選手が12－10で四日市商の林選手に逆転勝利して、5年ぶり3度目の優勝を果たした。



【個人戦】

4日／男子シングルス1～3回戦
女子ダブルス1回戦～準々決勝

会場：苫小牧市緑ヶ丘庭球場
会場：苫小牧市緑ヶ丘庭球場
千歳市青葉公園庭球場

5日／男子ダブルス1回戦～準々決勝

会場：苫小牧市緑ヶ丘庭球場
千歳市青葉公園庭球場

女子シングルス1～3回戦

会場：苫小牧市緑ヶ丘庭球場

6日／男女シングルス4回戦・準々決勝

男女ダブルス準決勝

会場：苫小牧市緑ヶ丘庭球場

7日／男女シングルス準決勝・決勝、男子ダブルス決勝

会場：苫小牧市緑ヶ丘庭球場

1・2回戦 1セットマッチ

3回戦・準々決勝・準決勝 8ゲームズプロセット

決勝 3セットマッチ(最終セットは10ポイントのマッチタイブレーク方式)

<男子シングルス>

いきなり第1シードが1回戦，第2シードが2回戦など上位4シードまでがベスト8まで敗退する波乱の展開となった。その中で第5～8シードまでの大岐優斗（佐土原），五十嵐涼太（仙台育英），坂本日色（相生学院），桃山晃（麗澤瑞浪）の4選手がシードを守って勝ち上がった。

決勝は準決勝で五十嵐涼太（仙台育英）に勝利した大岐優斗（佐土原）と，準々決勝で桃山晃（麗澤瑞浪）を準決勝タイブレークの大激戦で坂本日色（相生学院）を破りノーシードから勝ち上がった宮里流星（佐土原）となり，男子では平成6年以来の同校対決となった。

決勝は大岐優斗（佐土原）が第1セットを6－2で先取すると，第2セットは一方的な展開となり6－0で連取し，団体戦・シングルス・ダブルスを通じて宮崎県勢初めての優勝を飾った。



<女子シングルス>

第1～第8シードまででシードを守ったのは，第2シードの里菜央（相生学院）のみで大混戦となった。その中でベスト4には，千葉陽葵（大商学園），新井愛梨（同志社国際），小高未織（浦和麗明），里菜央（相生学院）が勝ち上がった。

準決勝は，まず小高未織（浦和麗明）が里菜央（相生学院）に8－4で勝利，続いて新井愛梨（同志社国際）が千葉陽葵（大商学園）との接戦に8－6で勝利し決勝へ駒を進めた。

決勝は，小高未織（浦和麗明）が接戦の第1セットを7－5で制し，第2セットへ。続く第2セットも安定したプレーを展開し6－3で押し切り優勝した。埼玉県的女子シングルスとしては昭和62年以来の快挙であった。



<男子ダブルス>

ベスト4には，第1シードで2連覇を狙った當仲・松岡（法政二）を3回戦で破り勢いに乗る永井・大館（日大三）を準々決勝で退けた第6シードの本山・水野（四日市工），ノーシード同士の対決をタイブレーク接戦で制した宮崎・谷畑（相生学院），準々決勝で第4シードの游川・木村（関西）を破った大岐・浅田（佐土原），安定した戦いで順当に勝ち上がってきた第2シードの若松・前田（相生学院）の4ペアが準決勝へ。

準決勝は本山・水野（四日市工）が宮崎・谷畑（相生学院）に8－4，大岐・浅田（佐土原）が若松・前田（相生学院）に8－3で勝利し決勝へ駒を進めた。



決勝は、第1セットを大岐・浅田（佐土原）が6－1で先取、第2セットも勢いは続き4－1とリードしこのまま押し切るのと思われたが、その後本山・水野（四日市工）が粘り強いプレーで逆転し6－4で取返し決着は最終セットのマッチタイブレークへ。最終セットは第2セットでの逆転の勢いをそのまま持続した本山・水野（四日市工）が10－5で制して優勝、団体戦と合わせて2冠を飾った。



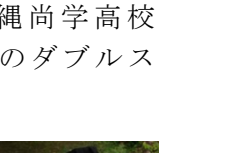
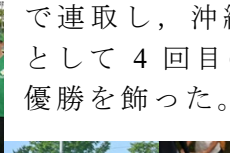
<女子ダブルス>

ベスト4には、準々決勝で第2シードの吉田・瀬戸（松商学園）を破った前田・大脇（浦和麗明）、1回戦で第3シードの里・田島を破り勢いの乗る水口・新城（沖縄尚学）、準々決勝で第4シードの岸本・中島（岡山学芸館）を破った井上・上野（山陽女学園）、ノーシード同士の対決を制した上方・川崎（野田学園）の4ペアが準決勝へ。



準決勝は水口・新城（沖縄尚学）が上方・川崎（野田学園）に8－4、井上・上野（山陽女学園）が前田・大脇（浦和麗明）に8－3で勝利し決勝へ駒を進めた。

決勝は、第1セット水口・新城（沖縄尚学）が4－1から4－4に追いつかれる6－4で先取、第2セットも危なげないプレーを展開し6－2で連取し、沖縄尚学高校として4回目のダブルス優勝を飾った。



<終わりに>

新型コロナウイルスが第5類相当に移行し、昨年度までの制約が撤廃され従来のインターハイが戻ってきたように感じる事ができた。しかしながら大会期間中、大会出場校、大会関係者は感染することがないように細心の注意をはらいながらの大会開催であった。

北海道実行委員会のみなさん、北海道の先生方、補助員を務めてくれた多くの生徒のみなさんのおかげで無事に大会を終えることができたことに改めて感謝を申し上げたい。

北海道は暑いと言っても本州以南より大分涼しく感じる中で大会が行われたが、来年の大分ではまた猛暑の中での大会を迎えることになるであろうことが予想される。猛暑を吹き飛ばす熱戦を願うばかりだ。









